

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防(通常砂防)		路河川名等	御屋敷の沢(おやしきのさわ)				
事業毎の通番		2	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	下室賀(しもむろが)			
事業概要	事業目的	御屋敷の沢は、流域面積0.41km ² の土石流危険渓流Ⅰであり、渓床勾配は1/4と非常に急勾配である。また、流域内には表層崩壊が確認され、倒木も多数みられる。保全対象区域には、人家14戸、(一)真田新田線、上手組集会所等があり、一度土石流が発生すれば甚大な被害が予想される。よって砂防えん堤を整備し、土石流災害から人命財産を守り、民生の安定を図りたい。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
	関連する事業、計画等	-							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家14戸、県道真田新田線、集会所							
	着手年度	H27	事業期間	4年間		事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	H30	費用対効果	7.2		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基				200,000	100,000	90,000	10,000
年度事業内容(主な工種)	地質調査・地形測量・堰堤工詳細設計 1式				10,600	5,300	4,770	530	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石流災害から、人家14戸、県道を保全 土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域の解消							
	間接的効果(定量的・定性的)								
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】14戸 【保全公共施設】県道真田新田線、上手組集会所 【保全災害時要援護者関連施設】なし 【避難場所】なし						評価	B
	重要性	【災害履歴】平成16年10月土砂流出あり 【交通影響】県道 【位置付け】地域防災計画に位置付けあり(土石流危険渓流)						評価	A
	効率性	【費用対効果】7.2 【早期効果発現】事業期間:4年間 【工法等比較検討】堰堤配置、形式等について比較検討あり 【総合調整】治山事業と調整中						評価	A
	緊急性	【地形地質】地質が脆弱(第三紀層) 【流域植生】倒木多数 【平均渓床勾配・土砂整備率】勾配:約14°・整備率:0% 【危険地区】土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり(H21.3指定)						評価	A
	計画熟度	【情報共有】関係者を中心に周知 【地域要望】地区要望があり協力的 【合意形成】目的については合意形成が図られている 【住民参加】現時点では住民関与は低い						評価	C
	部意見	当該渓流の保全対象には、県道が含まれており、速やかな土石流対策が必要である。	行政改革課意見	保全対象に人家、県道、集会所があり、渓床には不安定土砂が堆積していることから、緊急性が認められる。			評価結果	○	総合評価

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)			
 <p>事業箇所</p>	 <p>航空写真</p> <p>砂防堰堤工 1基</p> <p>上手組集会所</p>		
 <p>砂防えん堤正面図</p> <p>45.0</p> <p>8.0</p>			
【整備の必要性がわかる状況写真等】			
 <p>山腹崩壊状況写真</p>	 <p>土砂堆積状況</p>		
	 <p>倒木状況</p>		
事業概要説明図表			
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	御屋敷の沢は、土石流危険渓流であり、平成16年10月に下流集落への土砂流出が発生している。上流域には依然として不安定な土砂が堆積しており、豪雨時には土石流の発生が懸念されている。保全対象には人家14戸の他、県道真田新田線、集会所がある。県道への土砂流出流域調査(H21年度)実施	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	土砂流出が発生している箇所であり、地区からの要望がだされている。	
	③事業説明等の経緯	平成21年度に流域調査を実施しており、その折に事業目的について関係者に周知。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計・工法等の検討を行う予定。	
	⑥地域活性化への影響と配慮		
	⑦その他	砂防指定地申請予定	事業代表地点の緯度経度